
長官、ご苦労さま

朝は四時起き

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

長官、ご苦労さま

【Nコード】

N1997M

【作者名】

朝は四時起き

【あらすじ】

陳腐な名前の主人公でだらだらお送りしようかとおもいます

ブローグ的な

「メンヒベルグお前、よくやってるよな。お前の課、すごいハードなんだろ？」

昼食を食べていると、他の課に所属する同僚に声をかけられた。

「え、全然」

ラーメンをすすりつつ答えると、相手は驚いたような顔をした。

「いや、絶対大変だろ。毎日出張みたいなスケジュールじゃないか」

そういえば、こいつは最近うちの部署に配属されたんだっけ。
前いたのはうちと関わりが薄いとこだったんだな。

「知らないとは、不幸なことだなあ。なぜうちの課はハードなのに
入社倍率が600倍を超えているのか…分かるか」

そんなに！？なんで！？と驚く同僚。

「ふ…なぜならうちの課には、あの長官がいるからな…！」

テンション高くね？

この課は今日も忙しい。いわば必要悪な感じの課なので具体的なことはいえないが、とにかく今日も忙しい。

忙しいというのに。

「働きなさいカスどもッ！！」

「カスはひどいすよぉー」

だらけた様子で返事をする部下の一人のメンヒベルグ。前髪をピンで止めた茶髪の男だ。

「なぜいつもさぼっているんですか！給料泥棒ですよ！」

「いやあ長官を見てたらついにやけちゃって」

「にやけるな！」

「怒った顔も可愛いですよー」

「ッ！？やめなさい！私は男なんですけど！」

「えー、褒めてんのに」

そう言ってメンヒベルグはへらりと笑い、しかたなさそうに手元の書類を片付けだした。

「つたく…」

「うおーい、ミツカちゃんっ」

「……」

「ミカちゃん何その顔。え？そんなに僕が嫌いかい？」

「…いえ、別に。ミカちゃんと呼ばないでください」

またうるさいのがやってきた。

上司のくせに軽い人だ。

「ミカエルって呼ぶのはなんか嫌なんだよね。ま、機嫌直してさあ、ちよつとこの紛争止めてきてよ」

軽くなかった。

「紛争って。それ、アレスさんのとこの管轄じゃないんですか？」

「ま、そうなんだけどね。軍神さんは今忙しいみたいだから、こっちに回ってきちゃった。」

だいじょぶだいじょぶ、適当になだめれば止まるって」

「そんなもんなんですか？更に悪化したりしません？激しく不安なんですけど…」

また上司はだいじょぶだいじょぶと言った。

「シェン君とスタッヴァリ君が喧嘩してるだけだし」

どちらもミカエルとは違う課にいる、この上司の部下だ。

「んーま、シエン君が一方的に攻撃してるんだけどね」

「紛争じゃないですよ、それ！どうせスタツヴァリさんがサボってたからでしょう！」

「まーね」

「まーね、じゃないですよ。回ってきたんじゃないくて、最初からこの部署の問題でしょう…。ほっとけばいいですよ、そんなん」

だよねと言う上司。ただ無駄話をしに来ただけじゃないのか。

「そうそう、ミカちゃん。来週も仕事頼むことになるかも」

「…どうせろくなことじゃ…」

「…来週！？」

急にメンヒベルグが会話に参加してきた。

「はいっ！長官！その仕事絶対するべきだと思います！！」

そのとたん、他の部下たちも一斉に声を上げ始めた。

「長官お願いします！」「一生のお願い！」「今日で一ヶ月分の働きをしますからっ！！」

「ジョ・ソ・ウ！ジョ・ソ・ウ！」

目が仕事中には見られないほど、生気に満ちあふれている。

「なっ、なんですか！？何このテンション！？え、女装！？」

「うんうん。来週ね、ミスコンあるんだよね。女装の（笑）」

「出ますよね長官！」「出ないはずがないっすよね！？」「出場するのなら、俺たち仕事ちゃんとやりますよ！」「絶対似合うし！」「女の子みたいな顔ですしね！」「ていうかじつは女でしょう」

この、部下ども。こんな時だけ生き生きしている。

「…誰が出るかあああああっ！！」

この課は、だいたいいつもこんなテンションでお送りしている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1997m/>

長官、ご苦労さま

2010年10月9日05時49分発行